

【令和4年度】表彰

<環境活動表彰>

●東京都立三鷹中等教育学校 2年B組8班

「探求」の授業にて、中学2年生の4人のグループが三鷹市内の太陽光パネルの設置状況を調査した。

【調査方法】

Google EarthとGoogle Mapの航空写真を使い、丁目ごとの総建物棟数とパネルの有無、パネル面積を調べていく。発電出力は、カタログなどを参考にして単位面積当たりの算定を行った。さらに、建物の分類(一軒家、集合住宅、公共施設、店舗など)も行い、地域ごとや施設別など様々な角度から考察をしている。

【調査結果】

三鷹市における設置件数: 2,164棟

総建物棟数(41,225棟)に対する設置率: 5.25%

三鷹市における総発電出力: 11,109kW

設置率が5%という現状から100%へできるアクション(本調査)を、「Go to One Hundred Project」と名付けている。太陽光パネルの設置が進んでいない現状を知り、将来的により多くの太陽光パネルの設置が進めばと考えているため、今後は校内向けの太陽光発電についての情報誌を作りたい。また、学校説明会や月2回の土曜授業等にて、活動内容のポスターを掲げて来校者に見てもらった。さらに、校内にてアンケートも実施し、太陽光発電について考えるきっかけをつかった。

●東京都美容生活衛生同業組合三鷹支部、石井賢一

老人ホームや介護施設に出張理容をした時に車椅子が足りていないことを知り、理美容サロンから廃棄される使用済みのカラー剤チューブから得られた対価で車椅子を購入し、寄贈することで環境にも配慮した活動をしている。三鷹の理美容室発として、活動するための団体BBリサイクルパートナーズを立ち上げ、三鷹市内の理美容サロンのみならず、全国の400店以上のサロンを巻き込み、カラー剤チューブのリサイクル活動を展開し、これまで23台(三鷹市内6台)の車椅子を寄贈した。

約1tのカラー剤チューブの買取収益金から、1台の車椅子を作ることができる。この活動は、三方良し(利用客、店舗、理容師・美容師)の全員参加型のSDGsであり、環境にも福祉にも貢献する活動である。利用客は、店舗内のポスターやシールの掲示で活動を知ることができ、環境や福祉に貢献していることを知ることで、お客様の外見だけでなく、メンタルの美にも繋がっている。

今後は、理美容業界の魅力をさらに発信していきたい。現在は理容師・美容師の人材確保が難しい状況であるが、このような活動が業界イメージの向上につながるので、取り組んでいる。

<環境活動功労表彰>

●社会福祉法人にじの会

三鷹市緑と公園課にて登録されている「公園ボランティア」として、「大沢みはらし児童遊園」の清掃活動を行っている。社会福祉法人にじの会は、障がい者の入所・通所施設であり、公園の清掃活動は生活介護事業の園芸グループとして、知的障がい者、身体障がい者、施設職員が活動している。公園の清掃以外の活動は、道路の清掃、施設に隣接している畑での作物栽培、花を育て売ったり、花壇に水やり・種やりをしている。

大沢みはらし児童遊園は木が生い茂っているため、秋・冬場は落ち葉がたくさんある。また、公園内に急な階段があり、落ち葉がたくさん溜まると、公園利用者が転倒してしまう危険性があるため、階段を重点的に清掃している。急な階段であるため、施設利用者の歩行にも注意しながら清掃している。

今後も大沢みはらし児童遊園をきれいに保っていきたい。特に階段は足場が見づらいため、定期的な清掃をしていきたい。また、近隣住民にも公園の清掃を通じて、障がい者の理解にも繋がっており、施設利用者と近隣住民がお互いに挨拶を交わすといった、よい関係が生まれてきている。今後も地域の一員として、公園清掃を継続していきたい。

<環境活動奨励表彰>

●おおさわ学園三鷹市立第七中学校 ボランティア部

学校や地域でペットボトルのキャップを回収し、その売り上げ費用から世界の子ども達にワクチンを寄付している。焼却処分を減らすことで、二酸化炭素の削減にも繋がっている。また、地域の清掃活動も行っている。

ペットボトルのキャップ回収の流れは、全クラスに回収BOXを設置し、クラスで集めた後、学校でとりまとめ、回収会社に持ち込み、ペットボトルのキャップから得られた収益金をワクチンの寄付に替えている。活動を普及するために、年に2回、ペットボトルのキャップを一番多く集めたクラスに「感謝状」を贈呈している。このような取り組みもあったことで、生徒の意識が高くなり、校内の関係者にとどまらず、生徒・卒業生の家族や、地域の方も直接学校へキャップを持参するようになった。

地域の清掃活動は、校内周辺や落ち葉ですべりやすくなっている階段を清掃している。毎年夏休みの活動として、野川や橋の清掃も行っている。

今後は、ボランティア部の活動を後輩にしっかり引き継いでいきたい。また、時代に合わせた新たな取組み(ウクライナ人道危機救援募金活動等)もできれば良い。幅広いジャンルで、今後もボランティア部を盛り上げていきたい。部員も生徒も活動に興味を持つきっかけになれば良いと考えている。